

## 平成 29 年度大府市市民意識調査結果からみえる特徴

### 大府の住みやすさや魅力について

#### (1) 大府市は住みやすいと思う人は約 8 割

大府市の「住みよさ」について、「大変住みやすい」と答えた人は 29.9%、「どちらかといえ  
ば住みやすい」と答えた人は 49.6%で、あわせると大府は住みやすいと思う人は約 8 割  
(79.5%) でした。

また、回答者の年齢で仕切ると、10 代～40 代で大府は住みやすいと思う人は 83.3%、50  
代～80 代以上で大府は住みやすいと思う人は 75.9%でした。

#### (2) 大府市に住み続けたいと思う人は 8 割以上

今の場所に住み続けたいかと尋ねたところ、「今の場所に住み続けたい」と答えた人は  
53.7%、「当分の間今の場所に住み続けたい」と答えた人は 32.3%で、あわせると今の場所に  
住み続けたいと答えた人は 8 割以上 (86.0%) でした。

また、回答者の居住年数で仕切ると、5 年未満で今の場所に住み続けたいと思う人は 80.8%  
5 年以上で今の場所に住み続けたいと思う人は 87.4%でした。

#### (3) 大府市の自慢できるものや誇れるものがあると思う人は 3 割以上

大府の自慢できるものや誇れるものがあるかと尋ねたところ、「あると思う」と答えた人は  
32.4%でした。また、その内訳上位 3 つとしては「農作物 (ぶどう含む) (14.2%)」、「スポー  
ツ」(11.6%)、「公園 (健康の森含む) (11.1%)」といった意見が多く出されました。

### 行政サービスについて

#### (1) 最も満足度が高かった項目は「水の安定供給」で 7 割が満足と回答

「水の安定供給」について、「満足」と答えた人は 23.1%、「おおむね満足」と答えた人は  
46.9%で、あわせると 7 割 (70.0%) でした。

#### (2) 最も重要度が高かった項目は「防犯対策」で 7 割が重要と回答

「防犯対策」について、「力を入れてほしい」と答えた人は 40.5%、「できれば力を入れてほ  
しい」と答えた人は 32.3%で、あわせると 7 割以上 (72.8%) でした。

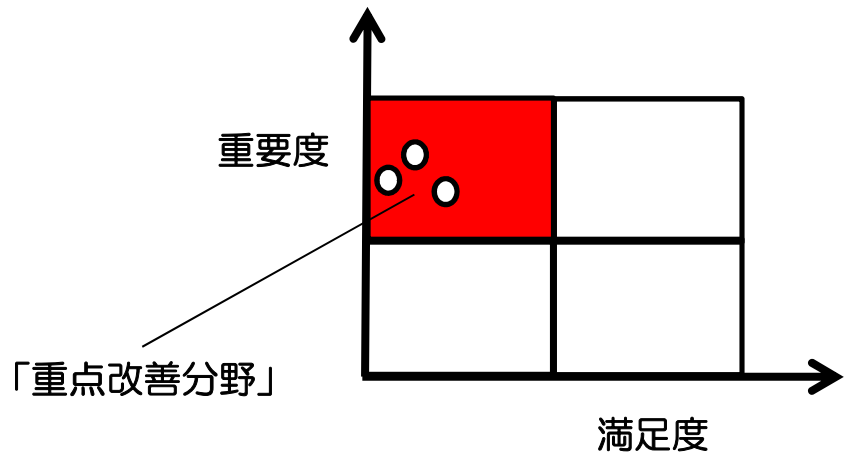
#### (3) 最も満足度が上昇した項目は「ごみの散乱がなく、きれいな景観づくり」

「ごみの散乱がなく、きれいな景観づくり」について「満足」または「おおむね満足」と答  
えた人は 55.7%で、第 5 次総合計画期間がスタートする直前の H21 (40.3%) と比べて最も  
満足度が上昇した項目となりました (15.4%上昇)。

## ポートフォリオ分析について

### (1) 「移動しやすい道路の整備」「駅周辺のにぎわいづくり」が重点改善課題として浮上

満足度と重要度の2軸で測るポートフォリオ分析結果から、「重点改善分野」（重要度が高く満足度が低い分野）には「移動しやすい道路の整備」、「駅周辺のにぎわいづくり」、「バスや鉄道などの公共交通の整備」といったインフラ整備に関する項目が挙げられました。



## その他分析結果について

### (1) ボランティア・NPO・市民活動をしたことがない人は7割以上

ボランティア・NPO・市民活動をしているか尋ねたところ、「活動したことはないがしてみたい」と答えた人は10.8%、「活動したことはない」と答えた人は63.8%で、あわせるとボランティア・NPO・市民活動をしたことがない人は7割以上（74.6%）でした。

### (2) 日頃から健康のために意識的に体を動かすことに取り組んでいる人は70代が最も多く、8割以上

日頃から健康の維持・増進のために意識的に体を動かすことに対する取組について尋ねたところ、「積極的に取り組んでいる」または「ある程度は取り組んでいる」と答えた70代の人82.6%と最も多く、次いで、80代以上の人79.2%、60代の人72.5%と、多くの人が意識的に体を動かすことを行っている一方で、30代の人50.8%と最も少ない結果でした。

### (3) 節電や省エネルギーに取り組んでいる人は8割以上

節電や省エネルギーに対する取組について尋ねたところ、「積極的に取り組んでいる」または「ある程度は取り組んでいる」と答えた人は8割以上（80.6%）でした。

### (4) 駅周辺のまちづくりを進めるために最も重要と考えることは「交通利便性の強化」

駅周辺のまちづくりを進めるために重要と考えることは何かを尋ねたところ、大府駅、共和駅ともに「交通利便性の強化（バス、駐車場等）」が最も多く、大府駅で28.2%、共和駅で27.5%でした。